

## 多重連携システムによる超防災型持続可能な地域環境の実現と日本大学の役割

本シンポジウムの共催団体として予定している農村計画学会は、東日本大震災後に、「大震災復興特別委員会」を設置し、農村、漁村での災害に対する復興計画等に関して総合的な視点から、青森県、岩手県、宮城県、福島県の被災地現地で対応しています。緑地、環境、漁業、都市、農村地域での環境・社会復興に関しての総合的な知見を、本シンポジウムにおいて日本大学の総合力で発信し、災害を乗り越えた新しい地域社会環境創造のための学術的発信・交流を積極に行うことを目的としています。

### ① 災害地域社会・環境の復興を支援する日本大学の総合力をアピールします

津波被害、原発災害に伴う復興再生は長期的で複雑なテーマです。原発事故災害の被災地の福島県にある工学部は、長年のロハス工学の理念の元に一年間の活動の中で復興再生の展望を地域社会に提示し、福島県再生に向けた大学の役割を果たしています。生物資源科学部は、原発被災地の福島県飯舘村、村民、子ども達への継続的支援と具体的な復興再生提案を提示し、外部・内部被曝リスク低減の政策提案も行っています。

津波災害地域の大船渡市等での高所移転計画支援等、災害地域社会の復興支援を具体的な計画的支援活動を教員、学生参加で進めている。同様に、生産工学部、理工学部では漁村再生、防潮堤再生に関してのより効率性と環境性、文化性に配慮した復興提案を行い、復興地域、政策への役割を果たしています。

### ② 災害を乗り越え、多重な連携による持続可能な地域環境の創造に向けた広範な技術基盤を提唱します

震災で明らかとなった現在社会構造の脆弱さを克服する展望として、多様なものが多重に重なり連携するシステムとそのハード・ソフトなシステム開発の開発を通じて広く世界で共有可能な知のプラットフォームとして結実させることを目的としています。これにより超防災のサステナブルな社会のための技術的、社会的基盤を確立することが可能となります。

### ③ 「日本大学超防災環境社会創造フォーラム」(案)のプラットフォームづくりに貢献します

日大総力を挙げ「超防災環境社会創造フォーラム」(案)の確立に向けた関係学部の連携を図る切欠に本シンポジウムがなると考えています。平成21年度(生物資源科学部)、平成22年度(工学部)に関連シンポジウムを開催しています。震災後は生物資源科学部で、全国農村サミット「地域の復興再生力と大学の役割」、工学部で、「「ロハスの工学」による”ふくしま”の復興を考える」等のシンポジウムを実施しており、本シンポジウムはその実績の集約的開催として、プラットフォームづくりに貢献できるものと考えられます。